

埴質沖積土壌の植え穴客土による白、紫紋羽病の予防

研究のねらい

埴質沖積土壌のリンゴ園地帯では、白紋羽病と紫紋羽病（以下、紋羽病）の発生が無く、このため、埴質沖積土壌は紋羽病に対する先天的抑止型土壌であると考えられる。そこで、これらの土壌を植え穴に客土した場合の紋羽病予防効果を明らかにする。

研究の成果

火山灰土壌の紋羽病発生園において、直径90cm、深さ60cm（又は直径60cm、深さ60cm）の植え穴に埴質沖積土壌を客土し、2年生ふじ／M.26を植え付けた。

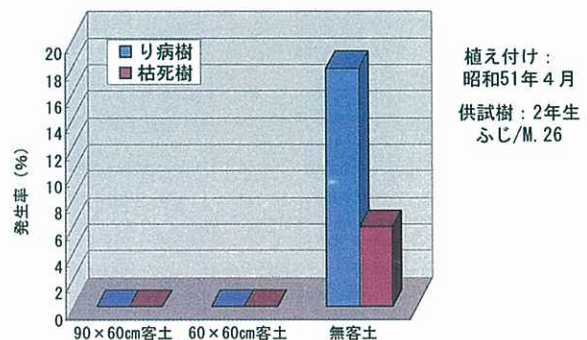
その結果、植え付け14年後の紋羽病有病率は、客土しない区では約20%であったが、客土した区ではいずれも0%であった。

以上の試験から、埴質沖積土壌の植え穴客土は紋羽病の予防効果が高いことが明らかになった。植え穴の大きさは、わい性台樹の場合、直径60cm、深さ60cmで十分である。

主要な試験データ



埴質沖積土壌の植え穴客土



第1図 埴質沖積土壌の植え穴客土と紋羽病の発生（植え付け14年後）

発表資料

化学部（1991）．白、紫紋羽病の発生と土壌の物理性．平成3年度指導奨励事項・指導参考内容：188-189．